いう珍しい遺跡で、貴重な遺物を多数観察できた。その後は金沢市経王寺遺跡（1997年度調査）の記名・分類・接合と実測・トレースを行った。染付や再興九谷の擂鉢等の陶磁器類や土人形、風鐸等の金属製品と近世から近代へと様々な遺物が出土した時代の推移を凝縮した遺跡であった。（博多友子）

８班　金沢市三社町遺跡（1997年度調査）は陶磁器類・木器・金属・石製遺物のトレースを終え完了。続いて金沢市金沢城跡（1997～99年度調査）の整理作業は分類接合はなく実測・トレースであった。三社町遺跡、金沢城跡の時代はどちらも近世であり、金沢城跡の遺物の中には病院の食器らしい陶磁器が見られたり、金属では大量のクギや石垣のすき間に入れてあったカスガイもあり、その中でも刻印のある物も見られ大変興味深い整理であった。（角間律子）

復元班　各班から持ち込まれる土器修復の毎日である。三引遺跡の縄文から藤江B遺跡、吸坂E1号墳、経王寺遺跡の近世まで幅広い時代である。ちょっと振り返れば、我が家でも見かけたような懐かしい物まである。また甕では最初は完形品であっても長い間土に埋もれていて土圧によって歪になり、割れて出土する物も多数ある。変形した遺物をいかにらしく完成品に仕上げるかが、復元腕の見せ所である。こんな作業は楽しみもわいてきます。（前田すみ子）

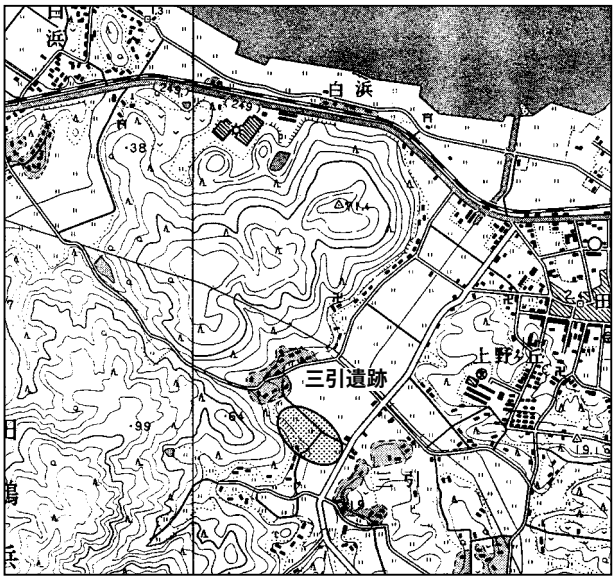
洗浄班　下半期からアルバイトを6名入れた8人体制で20遺跡の洗浄を行った。（柴山出村遺跡、甘田タイ遺跡、大長野A遺跡、田中遺跡、梅田B遺跡、倉見オウラント遺跡、指江遺跡、橋爪A遺跡、八日市地方遺跡、九谷A遺跡、真脇製塩遺跡、矢田野遺跡、幸町遺跡、大町ダイジングウ遺跡、弓波遺跡、荻島遺跡、畝田・寺中遺跡、畝田ナベタ遺跡、畝田B遺跡、畝田C遺跡）3班に分けて三つの遺跡を同時進行していたため、他の遺跡の破片と混ざらないように気を使った。（中村真弓）

	遺跡名	関係部局	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1班	梅田B	建設省						
2班	四柳白山下	建設省						
	武部ｼｮｳﾌﾞﾀﾞ							
	田中							
	三谷大谷							
	高岡町一ツ水溜							
	吸坂E古墳群ほか							
	加茂							
3班	藤江C	土木部						
4班	弓波	農林水産部						
	藤江B	土木部						
5班	三引	土木部						
	大津くろだの森							
6班	南黒丸・南黒丸B	土木部						
	近岡・戸水Cほか							
	経王寺							
7班	松山C	土木部						
	宇治役場裏							
	経王寺							
8班	三社町	鉄道建設公団						
	金沢城跡	土木部						

平成11（1999）年度下半期の遺物整理作業

田鶴浜町三引遺跡の貝塚出土品整理作業について

金山　哲哉



遺跡位置図（S=1/25,000）

1．遺跡と貝塚調査の概要

三引遺跡は、鹿島郡田鶴浜町三引地内に所在する縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。本遺跡の調査は、能越自動車道とその側道建設を原因として、平成6(1994)年から継続して実施し、同11(1999)年9月に完了している。

調査により、縄文時代前期初頭の貝塚が4箇所で確認されたほか、漆塗り櫛を始めとして、多種多様な遺物が出土している。貝塚は、厚さが10～30㎝の薄層で、しかも非常に緻密な堆積であったことから、廃棄の単位を捉えることはできなかった。したがって、やむを得ず貝層の大部分を単一層として調査している。

なお、貝塚の調査については、貝塚全体に公共座標に基づく50㎝×50㎝のメッシュを掛け、検出面から10㎝厚毎に順次掘り下げる柱状サンプリング的な方法を採用し、すべての土壌を土嚢袋で採取している。

2．整理作業の目的について

上でも述べたが、本遺跡の貝塚調査では、貝層のすべての土壌を採取している。本遺跡の貝塚出土品整理作業の目的は、この採取した土壌から得られる様々な資料を分析することにより、縄文人の食料事情を始め、生業活動の内容や貝塚の形成過程、古環境の変遷などを復元することにある。

ただ、採取した土壌は廃棄のまとまりを採取したものではないことから、これらを用いて生業活動のサイクルや貝塚の形成過程を詳細に復元することは困難である。しかしながら、以下のような作業を行うことにより目的に掲げた事象について、ある程度の傾向を掴むことは可能であると考えている。

それには、各地点、各深度におけるサンプル土中の資料の構成や多寡などを集計した上で、測量図や土層断面図を用い、近接する各グリッドの情報を比較・検討するという作業が必要であると考えられる。但し、この作業により深度や地点ごとの傾向あるいは変化を知ることは可能であるが、これだけでは貝層形成と所属時期のつながりが不明瞭となってしまう。幸いにも貝塚には、形成過程を知る手がかりとなる土器資料が豊富に含まれている。勿論、土器の変化する時間が、生業サイクルのそれと大きく異なるものであることは想像に難くない。しかしながら、廃棄区域の大まかな変遷を掴むことができれば、詳細な復元は困難としても、貝塚の形成過程や生業活動の一端、古環境の変遷などの傾向を導き出すことは可能ではないかと考えるのである。

以上の事象について、調査により得られた資料を可能な限り駆使し、明らかにすることを目的として、整理作業を進めていく予定である。

なお、これらの資料調査に採取したすべての資料を対象とした場合、整理作業に多大な期間を要することから、任意に抽出した貝塚面積の約5%に相当するグリッド分の資料を対象とすることとし、現在作業を進めている。

３．これまで整理作業と現状

貝塚土壌サンプル洗浄作業風景

発掘調査中に採取した貝塚土壌サンプルの総数は10,000袋を越えているが、これらについては一部の保存資料以外はすべて洗浄処理を行っている。

洗浄作業は、第一合成株式会社製ウォーター・セパレーションを使用し、平成10年度は1基、同11年度は5～9月までの5箇月間は3基、10～11月までの2箇月間は7基を導入、1基につき作業員2～3名を割り当てて作業を行った。

洗浄作業はすべて三引遺跡の発掘調査現場にて行ったが、平成11年の9月までは調査と併行する形であったことから作業は遅々として進まなかった。しかし、現地調査終了後は調査作業員を洗浄作業に充てることが可能となったため、同年10月からは上述のとおり7基の洗浄器を導入、11月までの2箇月間で同作業は完了している。また、洗浄後の資料の内、4mmメッシュ資料についてのみ洗浄後すぐに埋文センターへ持ち帰り、その他の1、2mmメッシュ資料に先行して選別作業を行った。同作業についても既に終了しており、現在は抽出した特定グリッドの1、2mmメッシュ資料を対象として選別作業を行っているところである。

この選別作業については、4mmメッシュ資料に限り、現場でのサンプリングエラーを補完する目的から全水洗資料を対象として選別作業を行っている。事実、30余点を数える玦状耳飾りや、その他ヤスや骨針などといった微細資料の多くが4mmメッシュ資料から発見されており、手掘りだけではこのような資料の多くが見落とされることが明らかとなっている。

なお、選別作業終了後は、次段階の分類・同定、計測・計量といった作業に随時着手していく予定である。自然遺物の分類や同定作業については、対象資料を5%に限定したとはいえ、一括して同作業を委託できるような量ではない。時間を要することにはなるが、自然科学研究者の指導を仰ぎつつ、図鑑や現生標本などを利用し、できる限り自力で分類と同定を行い、最後に専門家に検証を依頼する方法を考えている。

本貝塚の整理作業が目的とする、縄文人の生業活動や貝塚の形成過程、古環境の復元は、本文中でも述べたように土器の評価とリンクさせて行ってく必要がある。

しかしながら、整理作業の目的として掲げた事象の復元は、主に、貝殻や獣・魚骨、種子といった動植物遺存体に基づいて行われることになろう。

現在、貝塚自然遺物の整理作業は1、2mmメッシュ資料の選別作業に漸く着手したところであり、分類や同定など未だ数多くの作業が残っている状況である。

2mmメッシュ資料選別作業風景

土器や石器といった人工遺物と同様に、食物残滓である動植物遺存体もまたヒトの生業活動により作り出された遺物である。

自然科学分析による評価にとどまることなく、これらの動植物遺存体についても、目的とした事象の実態解明のために自ら利用し評価できるよう、今後の作業を進めていく必要があると考えている。

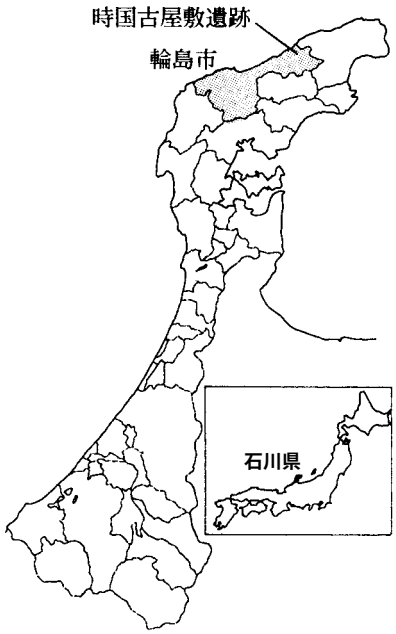
輪島市時国古屋敷遺跡・補遺

安　英樹

1　はじめに

時国古屋敷遺跡は、輪島市町野町南時国の字「古屋敷」に所在する。遺跡は奥能登の旧家「上時国家」「下時国家」が分立する以前に居住していた旧屋敷の比定地として知られており、これまでに1991・1992（平成3・4）年度に神奈川大学日本常民文化研究所が組織した調査団による発掘調査[1]、1997（平成9）年度に石川県立埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われている。1997年度の調査については、それまで不明確であった古代・中世の遺構・遺物がかなりの量得られており、当財団が整理作業を行い、1999（平成11）年度に発掘調査報告書を刊行している[2]。

私はその調査・整理作業に関わった者の一人であり、能登地域の古代・中世史に新たな視点を加えるような重要な成果を客観化・基準資料化するべく分析・検討を加えたが、報告書には時間的な制約により十分な成果を盛り込むことができなかった。また、文中に説明不足な点も多かったように思っている。今回、この紙面を借りてその一部を掲載し、報告書の補遺としたい。

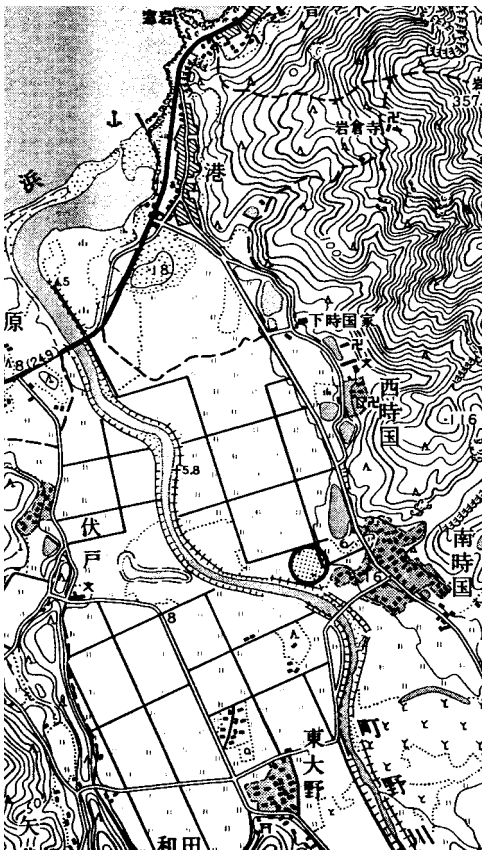


第１図　遺跡の位置

2　出土遺物の計量

1997年度の調査で出土した遺物は、農道調査区ではコンテナバットLⅡ型にして10ケース、水路調査区から同1ケースの量になる（木製品は除く）。その内容については、品目、頻度、出土地点を略記し、代表的なものについて実測図化・写真撮影を行い、報告書に掲載している。しかしそれだけでは遺物の実態、特にその頻度が主観的・相対的にしか表現されず、不十分と感じていた。よって、遺物を客観的・絶対的な数値に換算する試みとして、計量を行った。

計量は農道調査区出土遺物（木製品を除く）を対象とし、破片数と重量を測定した。破片数は識別可能なもの全てを数え、接合前の数値とした。重量は0.1g単位で全て読みとった。遺物の分類は、素材で土製・石製・金属製に大別し、それぞれを内容に応じて細別した。土製遺物は磁器も便宜的に含めるものとし、古墳時代以前の土器、古代の土師器、須恵器、製塩土器、施釉陶器、中世の土師器、陶磁器、近世以降の陶磁器、土製品、焼粘土塊の項目を設けた。石製遺物は石器・剥片類と砥石等の石製品に項目を分けた。金



第２図　遺跡の周辺（S=1/25,000）

属製遺物は銭貨、簪等金属製品、鉄滓等の鍛冶関係遺物に項目を分けた。土製遺物についてはさらに区分が細かいので以下に、解説しておく。

・古代の土師器：食膳具（椀・高杯）と煮炊具（鍋・甕）があり、ロクロ系か非ロクロ系かを区別。

・古代の須恵器：食膳具（杯・盤等）と貯蔵具（瓶・甕等）がある。

・中世の土師器：基本的に食膳具（椀・皿等）であり、ロクロ系か非ロクロ系かを区別した。

・中世の陶磁器：国産の珠洲、越前、瀬戸美濃、舶載の白磁、青磁を区別し、珠洲については調理具（擂鉢）と貯蔵具（壺・甕）を区別した。

・土製品：土錘と有孔円盤状土製品を区別した。

・粘土塊：土器とははっきり区別できるものであり、土器生産を含む「火処」に関係する可能性を考え項目を設けた。

以上の方法で計量した遺物の総量は8,029片・67,181gであった。今回はこのデータを使用して、遺物品目別の量比、遺構別の量比、古代遺構・遺物の量比、中世遺構・遺物の量比を把握することを主な目的として第1～4表に提示してみた。

第1表は出土した遺構の種類別に、分類した遺物の項目別で遺物の全体量を表したものである。遺構の時代は古代・中世にまたがり、量的には中世が多いにもかかわらず、土師器・須恵器等古代の遺物が7,703片（97%）・56,300g（84%）と圧倒的に多い。中でも古代の土師器は4,646片（58%）・26,955g（40%）と大半を占めている。遺構別ではSE（井戸）が飛び抜けているが、この大半は後述する古代の井戸SE2から出土したものである。また、SSは近世の石列・石組溝であるが、遺物総量474片・6,432gのうち古代の遺物が427片（90%）・2,894g（45%）、中世の遺物が26片（5.5%）・2,432g（38%）を占めており、近世の時点で周辺にかなりの遺物が散布しており混入したことを示すと同時に、古代の遺物の圧倒的な多量さを反映している。

第2表は第1表で「遺構外」とした遺物の出土地点別の明細を表したものであり、具体的には表土除去、遺構検出、その後の精査、写真撮影のための清掃、排土等から出土した遺物である。出土地点を記録したグリッドは幅約5m・延長約135mの調査区を5m×5m（25㎡）の正格子で27分割し、東から西へ向かって順に1～27区を設定したものである（第3図）。遺物の分布を見ると、遺物の種類毎にまとまって出土した地点が明瞭になっている。古代の土師器・須恵器は比較的まんべんない分布状況であるが、2・3区と10～19区に顕著な集中がある。遺構の分布と対照させると前者は大溝SD2a、後者は掘立柱建物・溝・土坑等の密集する遺構群の存在に対応することがわかる。一方で製塩土器は11～13区と17・18区にほぼ限定され、主要な遺構が分布する範囲の東西端に偏っており、前者はSB10やSX1、後者はSB16やSE2といった特定の遺構と対応しそうである。中世の遺物は土師器が僅少で、陶磁器でしか分布を追えないが、傾向としては古代の土師器・須恵器と共通する分布状況である。この他、時代がよくわからない遺物では焼粘土塊が14～16区、鍛冶関係遺物が3～6区と16・17区でまとまりがみられる。焼粘土塊と16・17区の鍛冶関係遺物は古代の焼土面・土坑と対応し、3～6区の鍛冶関係遺物は中世の溝に囲まれた掘立柱建物群と対応しそうである。以上のように、遺構外の出土遺物ではあるが、出土地点の記録から、遺構との関連や時期をある程度特定できた。

第３図　グリッド配置図（S=1/900）

	素材	土製										石製		金属製			合計
	時代	縄文～古墳	古代				中世		近世								
出土遺構	種類	土器	土師器	須恵器	製塩土器	施釉陶器	土師器	陶磁器	陶磁器	土製品	粘土塊	石器	石製品	銭貨	金属製品	鍛冶関係	（遺構別）
掘立柱建物	破片	2	146	56	176	0	3	2	0	0	1	0	3	0	0	5	394
（SB）	重量	28	938	1,336	729	0	145	15	0	0	14	0	11	0	0	51	3,266
井戸	破片	1	915	197	1,190	0	0	8	0	1	0	0	1	0	0	6	2,319
（SE）	重量	10	5,728	3,105	5,554	0	0	1,281	0	118	0	0	5	0	0	18	15,818
溝	破片	14	1,154	199	114	1	1	20	0	4	0	0	1	1	0	4	1,513
（SD）	重量	163	6,558	1,970	640	1	34	885	0	255	0	0	2	2	0	77	10,588
土坑	破片	20	156	20	38	0	0	1	0	0	9	0	0	0	0	1	245
（SK）	重量	117	1,996	720	200	0	0	23	0	0	133	0	0	0	0	68	3,257
焼土面･遺物集中	破片	0	230	9	3	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	260
（SX）	重量	0	1,080	42	26	0	0	0	0	93	0	0	0	0	0	0	1,242
石列・石組溝	破片	0	332	90	4	1	0	26	6	0	0	0	0	1	0	14	474
（SS）	重量	0	1,346	1,505	26	7	0	2,432	47	0	0	0	0	3	0	1,067	6,432
穴	破片	7	345	44	48	0	2	2	0	1	3	0	0	0	0	0	452
（P）	重量	49	2,043	715	336	0	17	63	0	42	28	0	0	0	0	0	3,294
遺構外	破片	38	1,368	550	289	0	4	77	18	4	8	1	1	1	1	12	2,372
	重量	622	7,266	9,894	1,903	0	20	2,747	348	128	51	0.4	4	3	5	294	23,285
合計	破片	82	4,646	1,165	1,862	2	10	136	24	28	21	1	6	3	1	42	8,029
（遺物別）	重量	989	26,955	19,287	9,414	8	215	7,445	395	636	227	0.4	22	8	5	1,575	67,181
合計	破片	82	7,703				146		24								
（土製・時代別）	重量	989	56,300				7,660		395								
合計	破片	7,976										7		46			
（素材別）	重量	65,570										23		1,588			

（単位片・g、小数点以下原則非表示）

第1表　出土遺物総括表

	素材	土製										石製		金属製			合計
	時代	縄文～古墳	古代					中世		近世							
地区	種類	土器	土師器	須恵器	製塩土器	施釉陶器	土製品	土師器	陶磁器	陶磁器	粘土塊	石器	石製品	銭貨	金属製品	鍛冶関係	（地区別）
1区	破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2区	破片	0	219	26	5	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	255
	重量	0	904	311	45	0	0	14	28	0	0	0	0	0	0	0	1,302
3区	破片	0	94	34	0	0	0	1	5	4	0	0	0	0	0	1	139
	重量	0	247	192	0	0	0	5	206	44	0	0	0	0	0	12	705
4区	破片	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7
	重量	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	30
5区	破片	1	18	20	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	3	47
	重量	26	96	341	0	0	0	0	149	0	0	0	0	0	0	58	669
6区	破片	0	15	10	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	4	33
	重量	0	40	87	9	0	0	0	0	4	0	0	0	3	0	165	307
7区	破片	0	13	11	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	28
	重量	0	74	126	13	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	226
8区	破片	0	8	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	12
	重量	0	35	39	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	90
9区	破片	0	12	32	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	50
	重量	0	61	640	16	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	721
10区	破片	0	34	23	5	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	68
	重量	0	120	355	28	0	0	0	154	66	0	0	0	0	0	0	723
11区	破片	0	25	30	17	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	75
	重量	0	126	510	80	0	13	0	8	20	0	0	0	0	0	0	757
12区	破片	0	32	28	34	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	96
	重量	0	212	400	186	0	34	0	3	0	0	0	0	0	0	0	835
13区	破片	0	31	20	15	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	68
	重量	0	199	175	88	0	0	0	29	0	0	0	4	0	0	0	493
14区	破片	2	83	25	6	0	0	0	4	1	1	0	0	0	0	0	122
	重量	27	466	688	30	0	0	0	221	8	13	0	0	0	0	0	1,452
15区	破片	7	121	26	0	0	0	0	3	0	6	0	0	0	0	0	163
	重量	111	713	391	0	0	0	0	36	0	33	0	0	0	0	0	1,284
16区	破片	1	125	50	4	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	1	185
	重量	5	1,208	865	16	0	0	0	52	0	6	0.4	0	0	0	12	2,165
17区	破片	0	134	48	37	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	222
	重量	0	714	1,098	230	0	0	0	165	0	0	0	0	0	0	35	2,243
18区	破片	1	120	12	112	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	245
	重量	13	417	159	884	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,472
19区	破片	1	46	17	14	0	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	84
	重量	54	233	251	59	0	0	0	86	0	0	0	0	0	5	0	688
20区	破片	0	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
	重量	0	25	304	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	329
21区	破片	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	重量	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
22区	破片	18	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
	重量	350	0	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	414
23区	破片	6	18	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
	重量	31	90	32	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	159
24区	破片	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	重量	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
25区	破片	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	重量	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
26区	破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27区	破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地点不明	破片	1	204	127	27	0	2	0	42	6	0	0	0	0	0	1	410
	重量	6	1,245	2,868	202	0	81	0	1,597	185	0	0	0	0	0	4	6,187
合計	破片	38	1,368	550	289	0	4	4	77	18	8	1	1	1	1	12	2,372
（遺物別）	重量	622	7,266	9,894	1,903	0	128	20	2,747	348	51	0.4	4	3	5	294	23,285

（単位片・g、小数点以下原則非表示）

第2表　遺構外出土遺物組成表

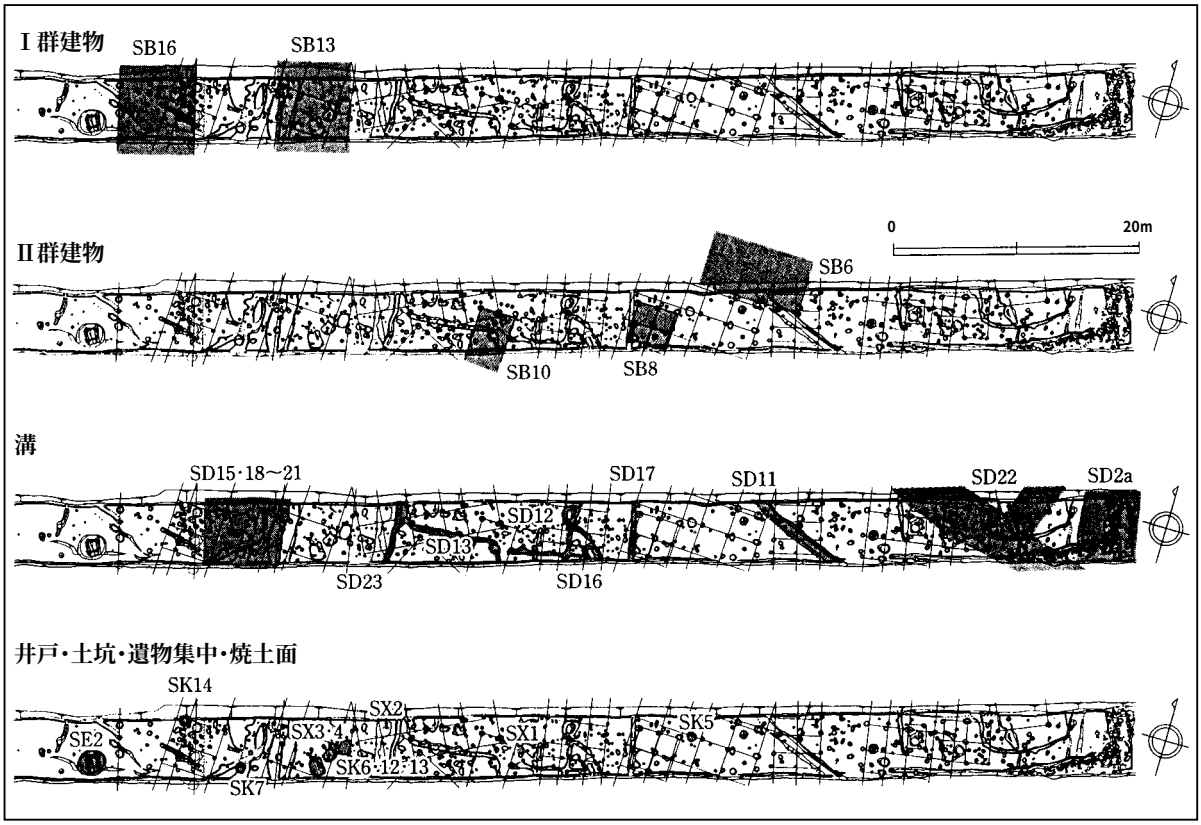
遺構	詳細	種類	土師器						須恵器		製塩土器	施釉陶器	土製品		粘土塊	石製品	鍛冶関係	合計
		詳細	食膳具				煮炊具		食膳具	貯蔵具			土錘	その他				
			非内黒		内黒													
			ロクロ	非ロクロ	ロクロ	非ロクロ	ロクロ	非ロクロ										
SB6	P88	破片	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		重量	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6
	P90	破片	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		重量	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	P100	破片	0	0	0	3	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6
		重量	0	0	0	4	0	0	7	6	8	0	0	0	0	0	0	25
	合計	破片	0	0	0	4	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	8
		重量	0	0	0	10	0	0	7	6	14	0	0	0	0	0	0	36
SB8	P113	破片	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
		重量	0	3	0	0	0	0	9	20	0	0	0	0	0	0	0	32
	P127	破片	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
		重量	0	3	0	0	0	10	0	6	0	0	0	0	0	0	0	19
	P128	破片	0	0	0	2	0	0	1	1	5	0	0	0	0	0	0	9
		重量	0	0	0	6	0	0	3	57	10	0	0	0	0	0	0	75
	合計	破片	0	2	0	2	0	2	2	3	5	0	0	0	0	0	0	16
		重量	0	7	0	6	0	10	12	82	10	0	0	0	0	0	0	126
SB10	P166	破片	0	8	0	0	0	2	10	1	0	0	0	0	0	0	0	21
		重量	0	49	0	0	0	23	248	8	0	0	0	0	0	0	0	328
	P209	破片	0	1	0	1	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	6
		重量	0	4	0	1	0	4	17	0	1	0	0	0	0	0	0	28
	P216	破片	0	0	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	5
		重量	0	0	0	3	0	0	3	36	8	0	0	0	0	0	0	50
	合計	破片	0	9	0	2	0	3	13	2	3	0	0	0	0	0	0	32
		重量	0	53	0	4	0	28	267	44	9	0	0	0	0	0	0	405
SB12	P229	破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P245	破片	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		重量	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	33
	P249	破片	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
		重量	0	0	0	0	0	0	13	7	0	0	0	0	0	0	0	20
	合計	破片	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3
		重量	0	0	0	0	0	0	45	7	0	0	0	0	0	0	0	52
SB13	P268	破片	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
		重量	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	12
	P276	破片	0	0	0	2	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	4	15
		重量	0	0	0	62	15	48	0	0	0	0	0	0	0	0	47	172
	合計	破片	0	0	0	2	3	6	0	0	2	0	0	0	0	0	4	17
		重量	0	0	0	62	15	48	0	0	12	0	0	0	0	0	47	184
SB16	SK8	破片	0	4	0	19	0	0	4	2	146	0	0	0	0	0	0	175
		重量	0	160	0	79	0	0	81	117	575	0	0	0	0	0	0	1,012
	SK9	破片	0	0	0	5	0	5	4	0	15	0	0	0	1	0	0	30
		重量	0	0	0	64	0	32	146	0	88	0	0	0	14	0	0	344
	合計	破片	0	4	0	24	0	5	8	2	161	0	0	0	1	0	0	205
		重量	0	160	0	143	0	32	227	117	663	0	0	0	14	0	0	1,356
SE2	掘り方（層7～10）	破片	4	6	0	133	0	6	21	3	382	0	0	0	0	0	0	555
		重量	18	43	0	848	0	6	207	314	1,801	0	0	0	0	0	0	3,237
	井戸側上部（層6下部）	破片	3	4	0	127	0	7	40	4	107	0	1	0	0	1	0	294
		重量	10	16	0	1,191	0	58	358	158	627	0	118	0	0	5	0	2,540
	井戸側下部（層11・12）	破片	3	3	0	14	0	1	1	1	39	0	0	0	0	0	1	63
		重量	55	13	0	91	0	2	16	8	226	0	0	0	0	0	4	412
	細石層（層13）	破片	0	0	0	17	0	0	5	0	2	0	0	0	0	0	0	24
		重量	0	0	0	127	0	0	29	0	10	0	0	0	0	0	0	167
	最下部整地層（層14）	破片	0	0	0	7	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	12
		重量	0	0	0	43	0	0	6	5	15	0	0	0	0	0	0	68
	層位不明	破片	13	48	1	473	0	45	90	26	658	0	0	0	0	0	0	1,354
		重量	32	198	5	2,735	0	215	615	1,369	2,876	0	0	0	0	0	0	8,045
	合計	破片	23	61	1	771	0	59	159	35	1,190	0	1	0	0	1	1	2,302
		重量	114	270	5	5,035	0	280	1,230	1,853	5,554	0	118	0	0	5	4	14,469
SD2a	上部（層11・12）	破片	29	72	15	524	0	15	70	15	13	0	3	0	0	0	3	759
		重量	165	200	118	2,957	0	129	323	522	81	0	250	0	0	0	76	4,821
	下部（層13）	破片	0	0	0	36	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	40
		重量	0	0	0	360	0	0	11	13	19	0	0	0	0	0	0	403
	層位不明	破片	25	4	2	61	0	1	11	2	2	1	0	0	0	1	1	111
		重量	61	20	20	317	0	6	55	71	18	1	0	0	0	2	1	573
	合計	破片	54	76	17	621	0	16	83	18	16	1	3	0	0	1	4	910
		重量	226	220	137	3,635	0	135	389	606	118	1	250	0	0	2	77	5,797
SD11		破片	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
		重量	0	0	0	0	0	9	9	0	12	0	0	0	0	0	0	29
SD13		破片	0	0	0	2	0	5	2	2	24	0	0	0	0	0	0	35
		重量	0	0	0	3	0	40	53	39	122	0	0	0	0	0	0	257
SD15		破片	0	27	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31
		重量	0	278	0	0	0	12	0	0	0	0		0	0	0	0	290
SD16		破片	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
		重量	0	0	0	0	0	20	0	30	0	0	0	0	0	0	0	50
SD17		破片	0	0	0	3	0	5	0	0	7	0	0	0	0	0	0	15
		重量	0	0	0	61	0	22	0	0	56	0	0	0	0	0	0	138
SD18		破片	0	0	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
		重量	0	0	0	3	0	65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68
SD19		破片	0	3	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	8
		重量	0	6	0	14	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	25
SD20		破片	1	10	0	17	0	4	3	1	16	0	0	0	0	0	0	52
		重量	2	334	0	85	0	30	44	11	86	0	0	0	0	0	0	592
SD21		破片	1	0	0	7	0	1	3	3	31	0	0	0	0	0	0	46
		重量	4	0	0	25	0	6	16	41	144	0	0	0	0	0	0	235
SD22		破片	0	3	0	8	0	0	2	5	5	0	0	0	0	0	0	23
		重量	0	70	0	50	0	0	62	260	55	0	0	0	0	0	0	497

第3表―1　古代遺構出土遺物組成表（2に続く）

SK5	破片	0	1	0	11	0	12	2	9	5	0	0	0	5	0	0	45
	重量	0	6	0	124	0	143	5	212	11	0	0	0	52	0	0	554
SK6	破片	0	1	0	5	0	24	0	0	3	0	0	0	1	0	0	34
	重量	0	4	0	24	0	634	0	0	17	0	0	0	64	0	0	743
SK7	破片	0	0	0	16	0	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	25
	重量	0	0	0	63	0	9	47	0	55	0	0	0	0	0	0	175
SK12	破片	0	5	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	2	0	0	16
	重量	0	63	0	0	0	69	0	0	0	0	0	0	15	0	0	147
SK13	破片	0	3	0	4	0	21	0	1	0	0	0	0	1	0	0	30
	重量	0	18	0	79	0	601	0	334	0	0	0	0	2	0	0	1,034
SX1	破片	0	3	0	8	0	219	9	0	3	0	0	0	0	0	0	242
	重量	0	46	0	59	0	975	42	0	26	0	0	0	0	0	0	1,149
SX2	破片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	18
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	93	0	0	0	93
合計（遺物別）	破片	79	208	18	1,512	3	406	292	84	1,478	1	4	18	10	2	9	4,124
	重量	346	1,536	142	9,483	15	3,167	2,455	3,643	6,969	1	368	93	147	7	128	28,500
合計 土師器・須恵器	破片	2,226						376									
	重量	14,689						6,097									

第3表―2　古代遺構出土遺物組成表（―1から続く）

（単位片・g、小数点以下非表示）



第4図　古代の主要遺構配置（S=1/600）

	中世土師器		陶磁器						土製品（土錘）	粘土塊	石製品（砥石）	金属製品（銭貨）	鍛冶関係	合計
	ロクロ	非ロクロ	国産				舶載							
			珠洲		越前	瀬戸美濃	白磁	青磁						
			調理	貯蔵										
破片	7	3	28	98	2	2	4	2	10	21	6	3	42	228
重量	173	43	1,814	5,499	55	12	52	12	543	227	22	8	1,575	10,034

（単位片・g、小数点以下非表示）

第4表　中世遺物組成表

第3表は古代の遺構・遺物に限定して、より詳しく量比を表したものである。遺構別では井戸SE2と大溝SD2aの出土量が傑出しており、それぞれ破片数で全体の56%・22%を占める。SE2は掘り方と井戸側上部、SD2aは埋土上部からほとんどの遺物が出土していることがわかる。掘立柱建物は全般に出土遺物が少量な中で、SB10の柱穴（P166）やSB16の柱穴（SK8）が比較的多く出土しており、ともに建物東面の位置にあることは風水的思想との関連を思わせ、興味深い。また、SB13ではこの遺跡でも希少な土師器煮炊具が出土しており、建物内に位置するSK6・12・13やSX3・4と関連するものであろう。SB16では製塩土器がまとまって出土しており、第2表の17・18区に見る分布と一致する。遺物別では量が多い土師器・須恵器の内訳が明らかであり、少し比較してみたい。土師器は破片数で総量2,226片のうち食膳具が1,817片（82%）と圧倒的に多く、技法では非ロクロ系が2,126片（96%）と圧倒的に多い。食膳具ではロクロ系は後出する11～12世紀代の土師器を含んでいる可能性があり、非内面黒色の非ロクロ系は、黒色化を意図して製作されながらも焼成時に酸化して黒色化しなかったものを含んでいることから、非ロクロ系内面黒色椀の頻度が数値以上に高いことが予想される。須恵器も総量376片のうち食膳具が292片（78%）と多い。貯蔵具は大きく、重いため、見かけの重量は高めの数値を示すが、個体数は決して多くないだろう。食膳具の多さは、遺跡の官衙的性格を裏付ける様相と言える。なお、土師器・須恵器食膳具については、表中の総重量を、ほぼ完形の土師器椀・須恵器杯の重量（時国古屋敷遺跡では報告書第23図3・第21図14が150g前後）で割り返し、大まかな個体数を類推してみた。参考としての数値であるが、土師器椀は97個体、須恵器杯は16個体が算出された。遺構外出土品等を含めるともっと数は多くなる。

第4表は中世の遺構・遺物に限定して、出土量を一括で表したものである。ただし、土錘・粘土塊・砥石・鍛冶関係遺物については古代の遺物と混合している。中世の遺物は、古代に比べて量が格段に少ない上に、遺構からの出土はきわめて希少であった。古代から中世にかけての著しい遺物量の減少は、中世の遺構面が古代よりもやや上位にあることによって、後世の削平による影響が大きかったことも起因していようが、根本的に土製食器に対する意識が異なることが大きい[3]。全体的な組成は、中世土師器はロクロ系と非ロクロ系があり、陶器は珠洲が圧倒的に多く、磁器は舶載の青磁・白磁で占められるという、能登における中世前半期の集落として普遍的なものと言える。

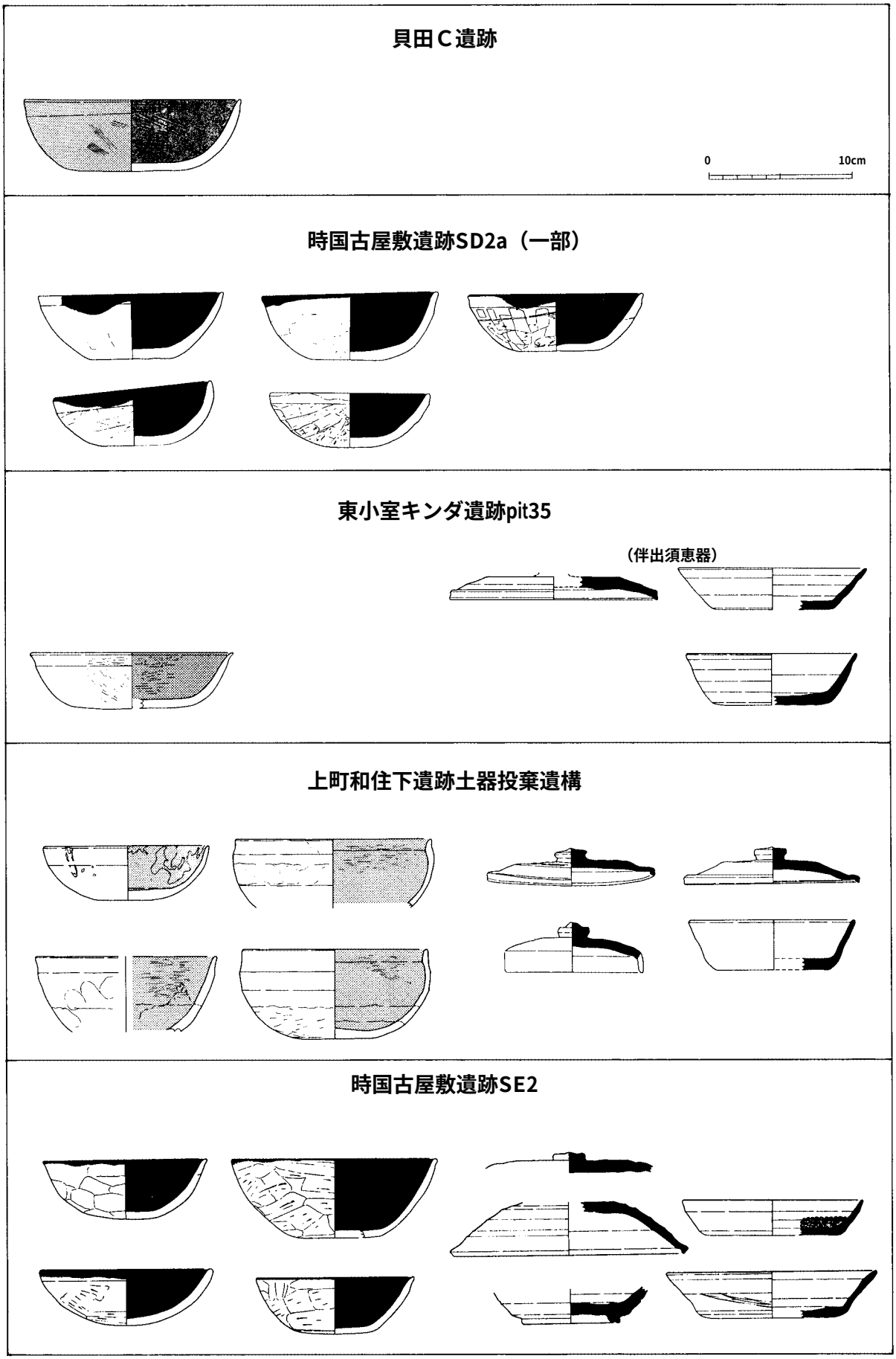
3　古代土師器の編年観

前項で述べたように、出土した遺物の大半は古代の土師器で、特に内面黒色の非ロクロ系食膳具（精製無台椀）が多く、食膳具の中核をなす。この種の土師器食膳具（以下、黒色椀）は、単品では古墳時代のものと区別することが難しく、小嶋芳孝氏が指摘する[4]までは、古代の土師器とする認識度が低かった経緯がある。報告書では形態分類を行い、共伴する須恵器から年代を求め、能登北部地域で卓越する様相の背景について考えたが、比較検討に用いた時国古屋敷遺跡以外の資料についてほとんどふれることができず、やや具体性に欠ける内容となった。よって、この項で他遺跡の資料も含めて補足しておく。まず、須恵器が共伴するか、それに近い一括的出土状況の資料を提示し、その変遷を辿る（第5図）。なお、形態分類については報告書のものを準用したい。

資料の提示

・富来町貝田C遺跡[5]　1a´類に分類できる資料がある。一括遺物ではないが、7世紀代の土師器とは区別できる大振りな精製椀であり、8世紀初頭から前半頃に位置付けるのが妥当と判断した。

・富来町東小室キンダ遺跡pit35[6]　1a類に分類できる資料がある。共伴する須恵器はIV_2～V_1期（田嶋編年[7]、以下同じ）、概ね9世紀前半に位置付けられる。



第5図　古代土師器食膳具の基準資料（S=1/4）